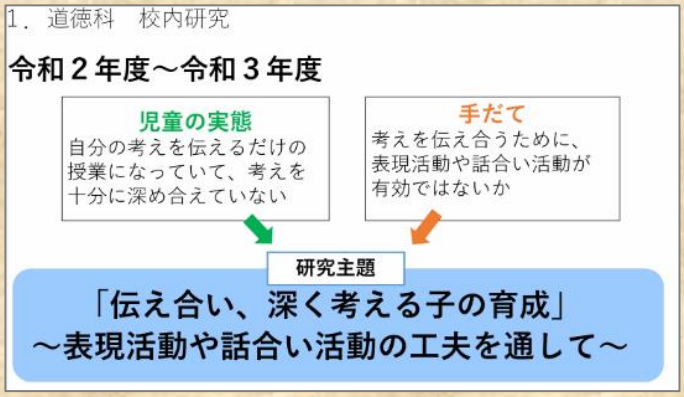
日本道徳教育学会神奈川支部　第32回学習会

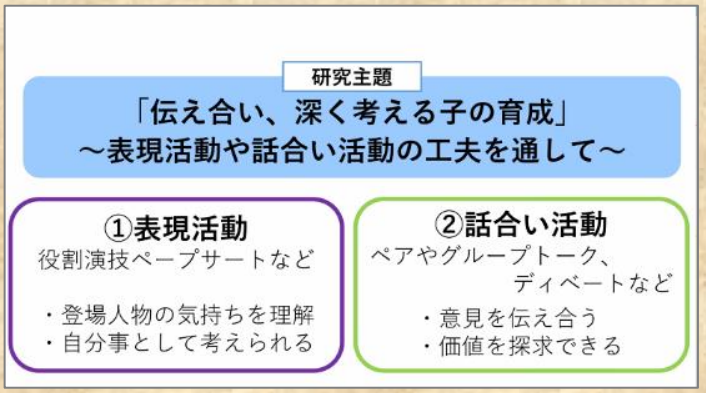
おかげでさまで今年度も計画していた学習会を全て開催することができました。オンラインを活用しながらの研修会で全国の先生方とつながることができた貴重な一年だったと感じております。
今回もご提案、ご参加された先生方のおかげで大変充実した学習会となりました。
第３２回学習会の概要を紹介します。

〈提案①〉

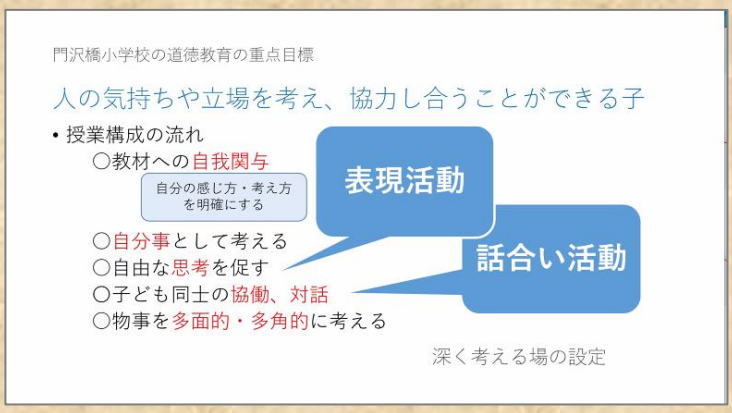
伝え合い、深く考える子の姿を求めて

山口真貴子先生　小野美穂先生（海老名市立門沢橋小学校）



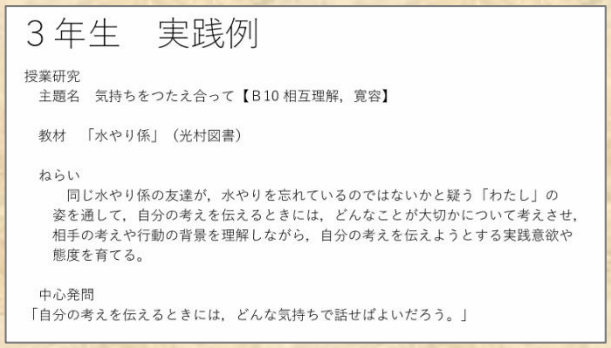


研究テーマと手立て



自分事として何を考えさせたいかを明確にするための教材研究に力を入れている。

（３年生の実践）



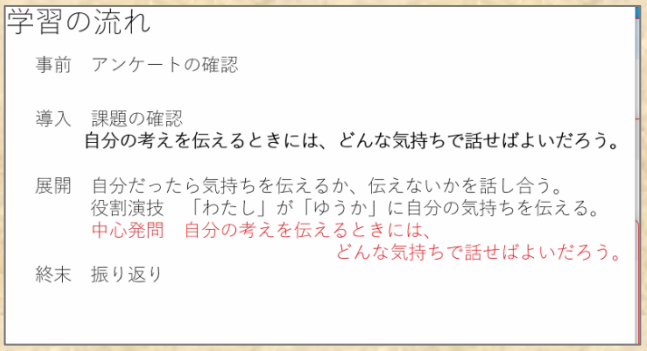
３年生　実践例

授業研究
主題名　気持ちをつたえ合って【B10 相互理解，寛容】

教材　「水やり係」（光村図書）

ねらい
同じ水やり係の友達が，水やりを忘れているのではないかと疑う「わたし」の姿を通して，自分の考えを伝えるときには，どんなことが大切かについて考えさせ，相手の考えや行動の背景を理解しながら，自分の考えを伝えようとする実践意欲や態度を育てる。

中心発問
「自分の考えを伝えるときには，どんな気持ちで話せばよいだろう。」



学習の流れ

事前　アンケートの確認

導入　課題の確認
自分の考えを伝えるときには、どんな気持ちで話せばよいだろう。

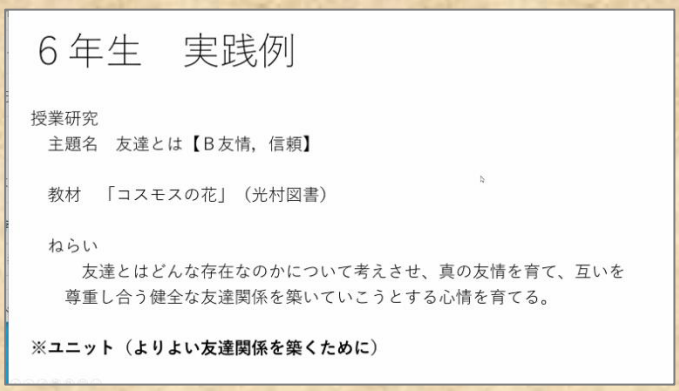
展開　自分だったら気持ちを伝えるか、伝えないかを話し合う。
役割演技　「わたし」が「ゆうか」に自分の気持ちを伝える。
中心発問　自分の考えを伝えるときには、
どんな気持ちで話せばよいだろう。

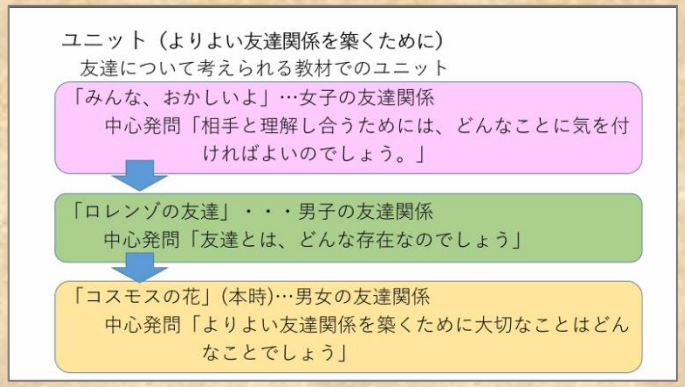
終末　振り返り

○思いを相手に伝えることが苦手な児童もいる。
　→しかし授業では聞き合うことができている。道徳授業で自分の思いを伝えることの良さに気づかせたい

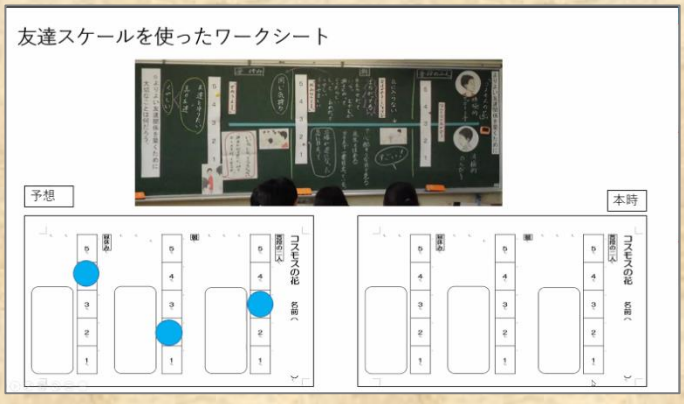
○役割演技を授業に取り入れる。→事前授業では変容が見られなかったため、児童への投げかけ方を再検討した結果子どもの意識にも変容が見られた。
○役割演技の投げかけ方を変えてより自分ごとになるようにする。
○ねらいとする道徳的価値と自分の生活がつながるようにすることが大切である。

（６年生の実践）





○友達について考える３つの教材によるユニットで計画した。
○親しい中にも相手のことを思いやる気持ちを深めていきたいというねらいを学習に込めた。



○友だちスケールの活用→気持ちの変容。その数値を設定した理由を聴くことで考えを深める。
○ただのきれいごとの話にならないように、主人公と北山の関係の抑えをしっかりとしておくことが大切である。
○教材の中の友達をさらに深いものにするために役割演技を取り入れる。
○子どもの変容例
　はじめは「友だちは支え合うもの」という「きれいごと」しか出なかったが
　→「恨んだり、ケンカしたりしてもやはり友だちだから傷つけることはしたくない」といった人間の弱さも受け止めた意見も出てきた。

○より具体的な状況設定→自分ごととして考える。
○表現活動と話し合い活動→考え方を広げる。

（質問・感想）

Q「動作」だけでなく「言葉で書くこと」も表現活動とも言える。何も言わない「無言の状態も」も表現活動ということもできる。「表現活動」をどのようにとらえているか？

A「書くこと」が苦手なために動作による表現活動に重きをおいている。

Q「話し合い活動」はどのような形式で行われたか？

A ペア→少人数→全体共有と広げていった。

Q ロールプレイで向いている教材とは？

A「B の人と関わること」はやり易い。より自分ごととして、友だちとのやり取りの場面ですることが多かった。ワークシートに書いてから役割演技をする。話し合って共有してからやる先生と子どもたちでやってからやることもある。

Q（全体での共有）「D の領域」で役割演技はできるか？

A 中学校でも人に関わる教材であれば可能である。「二人の弟子」などの役割演技をしたことがある。

A 学習の最後に自分たちの身のまわりにある自然や、感動するもについて、初めて会う人に伝えてみようという活動をやったことがある。

A 自然の花や虫、動物の立場をつくって演技するというやり方もある。

A 役割演技は工夫次第で色々なやり方でできる。

Q ユニットを計画する際、男子の友情、女子の友情、男女の友情と分けていたが、そのことによってお互いにがお互いを思いやるなどの変容はあったか？

A 特に男子だから女子だからといった性別による違いは見られなかった。子どもたちは「友情」という視点で話し合っていた。

Q 補助発問という言葉が出てきたが、補助発問、問い返し、揺さぶりの違い等意識している部分はあるか。

A 補助発問と問い返しを厳密に分けているわけではないが、中心発問に進むための「補助発問」、より本音を出すための「問い返し」と考えている。

Q（全体での共有）補助発問、問返しなどの定義について先生方はどのような考えをもっているか？

A 発問とは教師の意図をもって子どもの答えを導くもの、質問とは教師自身も分かっていないことについて尋ねるものと捉えている。

A 問い返しは色々な意味があると考える。子どもの言葉に返すことで、子どもが言ったことの本質を引き出すため、自覚化させるため、周りのみんなに分かってもらうため、展開を進めていくため…といったように目的と意図を考えて使っているものだと考える。

A 補助発問は子どもたちだけでは達せないけど、教師が背中を押してあげることで、気付けるようにしていく支援的言葉がけのようなものではないか。子どもの思考を助けるもの。ただし、教師の発問を入れることによって子どもの思考が分断されることもあるという難しさもある。

[感想]

友達関係を男女で分けることの是非。男子特有の問題女子特有の問題と考えるのはよくないのでは。

研究のテーマ「深く考える」と「伝え合う」は並列なのか、順序性があるのか。どのように関連しているのか。

自分事として深く考えた結果、伝え合うことに繋がるのか。伝え合うことが手段でない場合、「伝え合うこと」を充実させるための工夫はどのようなものか考えていく必要がある。

Q 終末部分で実際にどのような振り返りをされたか。
A ポートフォリオ的な振り返りをして授業の感想を書いていった。
最初は「こうするとよいと思った」という意見が多かったが、徐々に自分事として学習を捉えられるようになると「自分だったらどうする」という意見を書くようになってきた。振り返りの際「自分はどうだったか」ということに必ず投げかけるようにしていた。

[感想]
トランスジェンダーの問題、役割演技で男子と女子を分けるなど、伝統的な価値観を越えて、これからは異性についての理解を超えたものを考えていく必要がありそうである。

[感想]
６年生家庭科の授業で SDG s について学習したことがきっかけで、「トランスジェンダー」「男の子が～」、「女の子が～」という言葉に対する子どもたちの意識が変わったように感じる。

[感想]
教科書会社もジェンダーに関する視点で教材作りにおいてものすごく意識をしている。
心理劇（サイコドラマ）が起源といわれる。役割演技は自由に演技をすることで、自分の本当の気持ちに気づくという意味があるのではないか。
役割演技には相手の気持ちや立場になって考える以外に、自分の本音に気づき、自己実現していくためのものという視点もあるのではないか。

[感想]
トランスジェンダーに関しては「色々な人がいてもいい」という考えをもつことが大切。それを標準にしないといけないというのは別の話である。例えば男女で使うものを全て一緒にする、画一的にするということはトランスジェンダーにおける問題を根本的に解決することにはつながらないと考える。

[感想]
実際に授業を見たが、子どもたちは、「男女の友情」という視点で話し合っていたわけではなく「自分だったら」という視点で話し合っていたと感じる。男女は関係なく「自分」と「相手」としての役割演技として捉えていた。時前授業の結果を分析し、本時では中心発問から終末に至るまでにどうするかということを考えていくプロセスが興味深かった。

〈提案②〉

生き方を励まし、勇気づける授業づくりの一考察

～MoSTを援用し、指導と評価の一体化を目指した実践～

大橋立明先生（長岡市立宮内中学校）

生き方を励まし、
勇気づける授業づくりの一考察
～MoSTを援用し、
指導と評価の一体化を目指した実践～

新潟県　長岡市立宮内中学校
大橋　立明

本発表で提案したいこと

1　年間35時間（小１は34時間）の道徳授業の中で、MoSTを援用した授業を１，２時間取り入れてみませんか。

2　ベテランの先生方はSGEやSSTなどに取り組んだ経験があります。MoSTを紹介したら、道徳授業に前向きに取り組んでくれるのではないでしょうか。

3　MoSTだけでは勘違いされるおそれがあるので、「道徳性を養う」ことを強調してお勧めしませんか。

MoST モラルスキルトレーニング（道徳におけるスキルトレーニング）

○MoST を取り入れた授業を取り入れることで、道徳の授業を楽しく変えていきたい。

○同僚の先生にもMoST の良さを知ってもらいたい。

○MoST を通して子どもの人生を豊かにしていきたい。

○実践の良さを取り入れるエンカウンターやＳＳＴに似ている。

（実践１）

５実践(1)「全校一を目指して」①

朝読書の時間に読ませた教材の感想を隣の生徒と述べ合わせた後，場面絵を用いて教材を説明し，約10分で道徳的問題場面の理解を促した。

「アルミ缶を八万個集めて，車いすをおくろう」という美化委員の目標を受けて，真美は，学級活動の時間に学級の目標と取組について話合いを行った。それを受けて由紀が毎週交代で当番を出すことを提案し，賛成多数で実行されることになった。
出だしは好調だったが，秋になると部活動の新人戦が近づいて朝練習が忙しくなり，当番になっても仕事をやらない人が出てきた。真美と由紀は二人で相談し，当番をしないで部活動に向かおうとする圭司と悟に話しかけるのだった。

５実践(1)「全校一を目指して」②

教材提示後，「圭司と悟に足りなかった考えはどんなことか」と問い，個人で考えさせ，小グループで意見交流をさせた。全体発表では，表出した考えを問い返しながら，黒板にまとめた。

生徒	発表した考えとその理由
A	クラスのみんなと協力する考え。朝練があって朝忙しいのはみんな同じだし、やらない人が出てくると、それをきっかけになって、やらない人が増えてクラスがまとまらなくなる。
B	悟と圭司がもっと優しく言って、手伝えばいい。最初から怒りっぽく言うとケンカになるし、みんなで決めたことだから当番をすることは当然だ。
C	相手を気遣う心と先を考えること。相手のことを考えて、新人戦のことをもっと早く伝えるべきだ。
D	素直に受け止めなかったこと。「俺だけ？」ではなく、用事のことを相談して、解決する方法を見つけ、協力すればいいと思う。
E	活動に参加している自覚が足りない。自覚があれば、真美と由紀の二人が困らなかったから。

○１０分で教材を把握し問題場面の理解をさせる。後半はMoST に取り組む。

○演じることに慣れさせる。

○話し合うことに大切なことを子どもと確認する。

○メンタルリハーサル＝イメージトレーニングをする。

○シェアリングの時間があまり取れなかったため、具体的な行為や行動良さについて考えることは難しかった。

（実践２）

５実践(2)「行けなかったサイクリング」①

朝読書の時間に読ませた教材の理解を促すために，隣の生徒と感想を述べ合わせた後に，フローチャートを用いて簡潔に教材を説明した。これにより，約５分で道徳的問題場面の理解を促した。

土曜日の午後から修たちとサイクリングに行く約束をした「ぼく」。準備のために帰宅すると，母親から，転校前の友達の幸雄が急に遊びに来ることを聞く。どちらと遊べばいいか悩んでいるうちに約束の時間が過ぎ，結局幸雄と遊ぶ方を選ぶ。月曜日，「ぼく」は修たちから取り残されたような気持ちをどうすることもできなかった。

修とサイクリングに行く約束
↓
「幸雄が遊びに来る」と聞く
↓
約束の時間がどんどん過ぎる
↓
幸雄と遊ぶ決断をする
↓
月曜日、修に土曜日の話をする
↓
「大事な友だちがいるらしいな」
↓
長々と弁解する。
↓
取り残されたような気持ちが・・・

５実践(2)「行けなかったサイクリング」②

教材提示後，「修と幸雄それぞれの友情を大切にするために『ぼく』に足りなかった考えは何だろうか」と問い，個人で考えさせ，小グループで意見交流をさせた。全体発表では，表出した考えを色分けして分類しながら黒板にまとめた。

生徒	発表した考えとその理由
I	修の方を優先させるべきだった。ずっと前から計画していたけど、幸雄は前から約束していたわけではないから。
J	約束の時間の前に、修に「今日行けないかも」と伝えること。事前に言っておけば、約束の時間に来なければ、行けないと分かるから。
K	どっちと遊ぶか、すぐ決めること。約束の場所に時間通りに行って、サイクリングに行けないことを伝えれば、修と仲が悪くなっていなかったと思う。
L	学校で謝るのではなく、その日に説明することが必要。時間が空くと気まずくなるし、その日に言ったほうが急に幸雄君が来たことが分かってもらえると思う。
M	修に「今日はサイクリングに一緒に行けなくてごめん」と集合時間前に行って言うこと。「ごめん」が大事だと思う。

○実践１の反省を踏まえ前半の時間短縮を行った。
○全体の演技後、代表生徒による演技の共有。子どもに演技のどこがよかったかを尋ねる。行動の代案などが意見として出てきた。
○シェアリングの時間もとれたため、学習の振り返りで行動について記述している児童９割を越えた。

（質問感想）
Q ただの役割演技とMoST は何が違うのか？
A スキルのトレーニングに特化している部分だといえる。

Q 東京書籍の教材「缶コーヒー」では演じ直すことで子どもの考えを深める実践例などあるがこのMoST の実践でも「演じ直し」等はしていたか。
A やっていないので、今後取り入れてみようと思う。

Q スキル＝行為を道徳性に結び付けるのはどうなのか。心情の追求の前段階にあるものではないか。
A「価値や心情を深めていく道徳授業」が好きな先生にとってスキルを扱う授業というのは、まだ多少の抵抗があるようにも感じている。

[感想]
先生が楽しくやっている、広めていることが素敵だなと思った。MoST の魅力は、行為を通して、自分を自覚化できることだと感じる。
練習ではうまくできるが、実際にはできないという難しさをメタ認知することが大切である。なぜ実際にはそれができないのか、演技してみて思わず笑ってしまったのは、どういう気持ちで笑ってしまうのかなど、スキルの練習をきっかけに、そこから道徳的な学びにつなげていくことができる。

[感想]
Ｃｓｓの考え方を道徳に取り入れるとよいのではないか。SST よりやり易いのではないか。
スキルの習得は、道徳ではなく特活でやることが大切とも考えられる。

Q「幸福な人生をつくっていく」と提案にあったが、この数時間のMoST の実践だけで子どもの人生を豊かにすることは難しいのではないか。
A「幸福な人生」は少し壮大な目標だったかもしれないが、支部テーマの「勇気づける道徳」という視点から考えると、このMoST の経験が子どもたちが人生の中で何か、迷いが生じた時に「道徳でこんなことを練習したな」と一歩踏み出す勇気となればということは考えていた。

Q スキルの中で口調、表現、言葉遣い、顔、などがあったがこれは子どもたちと一緒に考えたものか。投げかけ方はどのようにしたか。
A スキルの項目については「相手に申し訳ない気持ちを伝えるにどうしたらよいか」と投げかけて、子どもたちと一緒にその場で考えていった。

Q 授業によってもし子どもたちから上記のスキルの項目が出なかった場合はどのようにするか。

A「今まで教え子だったらこんな意見があったよ」などの例示する。

Q アンケートでは「MoST をまたやりたい」１００％という結果が出ていたが、授業の中で一人一回、動作化などの体験活動を経験しているのか。そののち代表生徒による演技をやっていたのか。やり方を知りたい
A 一回はスキルトレーニングをやっている。その後、代表で選ばれた人間がスキルトレーニングをする。。

Q モラルスキルトレーニングシェアリングする前にどんな投げかけを子どもにするか。
A「一分間一人で考えてください。その後今日学んだことをということでシェアしてください。」と投げかける
２分程度で子どもたちは話す。

[感想]
子どもたちの感想より、「自分の葛藤したことではなく第三者的な視点で書いていないか」自分ごととして葛藤する心が見られなかったようにも捉えられる。子どもの揺れたところに価値があるのでは？

Q 振り返りで「行動面について」の振り返ることはマストなのか。
A 価値行動どちらでも深まっていてもよいと考える。
道徳性と行動面の両方養うことが大切である。自分の行動を変えようと思ったことに迫っていけるとよい。

[感想]
生徒は小学校までに役割演技の経験をしているか。役割演技の経験がある生徒とない生徒で、中学校の道徳の授業の受け方も変わるだろう。子どもたちが役割演技を経験したうえで、子どもたちが学びを選択できるとよい。

Q 目に見える子どもたちの変化があったなら教えてほしい。
A クラス全体に演技してもいいんだ。こういうこと勉強をしてもいいんだという雰囲気が生まれた。クラスの仲が良くなった。

QMoST の限界、留意点などがあれば教えてほしい・
Aいじめを題材にしたスキルトレーニングはしない方がよい。演じる時は初期は全体発表から慣れさせるとよい。

提案されたことをもとに、役割演技、発問など、参加者全体で色々なテーマについて話題を広げて深めていくことができました。今後も提案者も参加者も共に学び合える学習会を目指していきたいと思います。次年度も神奈川支部の学習会にぜひご参加いただけるとありがたいです。